

平成27年度 事業報告書

自 平成27年 4月 1日
至 平成28年 3月31日

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

東京都三鷹市新川5-14-16

I 公益目的事業の実施状況

1 社会教育（アジア・アフリカ図書館）事業

(1) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する蔵書収集及び閲覧・貸出し

① 蔵書収集

書籍 108 点を購入。このほか個人及び団体からの 174 点の寄贈を受け付けた。

② 閲覧・貸出し

開館日時・日数、ならびに利用者数・利用申込者数・貸出し実績は以下の通り。

<開館日時・日数>

火・水・金曜日 12:00～17:00（第3水曜日は休館）

土・日曜日 09:30～17:00

開館日数 239 日

<利用状況>

利用者数 1153 人、利用登録者数 168 人、貸出し冊数 285 点

(2) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する文化講座の開催

文化講座「第24回アジア・アフリカを知る集い」を次の通り開催した。

講座題目：『アラビアンナイトを生んだアラビア語の世界』

講演者：師岡カリーマ・エルサムニー（NHKアラビア語講座講師、獨協大学、慶応義塾大学講師）

開催日：平成28年1月31日

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋3階）

参加者数：46人

(3) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する調査・翻訳の受託

法人及び個人からの依頼を受けて年間45件の翻訳案件を処理した。

(4) 三鷹市立図書館との協働事業関連

「三鷹市立南部図書館みんなみ」（当法人三鷹本部社屋1階。以下「南部図書館」という。）との協働事業として、以下のことに協力した。

① 南部図書館内に設けられた展示コーナーで行う郭沫若関連の企画展示に対し

て、郭沫若文庫の所蔵品を無償で貸し出した（前年度から継続実施）。

- ② アジアの絵本の読み聞かせの会において、専門学校アジア・アフリカ語学院在籍の留学生が母語で絵本を読むボランティア活動を行った（前年度から継続実施）。

- ③ 南部図書館の開館記念日行事「みんなみフェスタ」が平成 27 年 11 月 22 日に開催された。概要は以下の通り。

<午前の部>

子どもを対象にした行事「留学生とあそぼう」に専門学校アジア・アフリカ語学院在籍の留学生が参加し、様々な企画に協力した。

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋 3 階）

参加者数：子供 38 人、大人 35 人、計 73 人

<午後の部>

講演会の開催に協力した。

企画名：講演会『イスラームの飛躍の時代とアラビアンナイト』

講演者：宮崎正勝（著述家。元北海道大学教授、元筑波大学講師）

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋 3 階）

参加者数：53 人

(5) その他

- ① 「アラビアンナイト」に関する常設展示を企画、開催した。

展覧会名：『千夜一夜物語ーアラビアンナイトの世界』

展示内容：当館所蔵の各種アラビアンナイト書籍をパネルと現物展示で紹介

開催期間：平成 27 年 7 月 1 日から平成 28 年 1 月 31 日

開催場所：アジア・アフリカ図書館閲覧室（三鷹本部社屋 2 階）

- ② 中江利忠氏（当法人理事・元朝日新聞社社長）の写真展の開催を後援した。

展覧会名：『中江利忠写真展 カメラが捉えたアジア・アフリカ etc.

ー戦後 70 年を回顧してー』

紹介点数：30 作品

開催期間：平成 27 年 11 月 21 日から同 27 日

開催場所：アジア・アフリカ図書館エントランスホール（三鷹本部社屋 2、3 階）

- ③ 上記①の企画展示開催に合わせ、当図書館の情報発信の媒体のひとつとして「アジア・アフリカ図書館だより」を復刊。以前のたよりから構成を全面的に改訂し、平成 27 年 6 月号を創刊号として刊行した。

2 学校教育（アジア・アフリカ語学院）事業

(1) 日本語ならびにアジア・アフリカの言語・文化・社会に関する教育

ア 学校教育法第124条に基づく専修学校専門課程の教育

日本語学科は総定員を100名から140名に増員し、1年・1.5年・2年の3コースを開講した。前年度に設置した2年コース在籍生のうち卒業が認められた10名については、同学科として初めて専門士の称号が付与された。平成27年度の日本語学科各コースの開講実績は以下の通り。

〈開講コースと入学・在籍者数〉 ※ 人数は本科生のみ。科目等履修生や聴講生は除く

平成26年10月 入学 進学1.5年コース(53期)	在籍者数 44名 (26年4月時点)
平成27年4月 入学 進学1年コース(54期)	入学者数 49名
平成27年4月 入学 進学2年コース(54期)	入学者数 11名
平成27年4月 編入学 進学2年コース2年	入学者数 15名
平成27年10月 入学 進学1.5年コース(55期)	入学者数 31名

〈卒業生数〉 ※ 人数は本科生のみ。科目等履修生や聴講生は除く

平成27年度の卒業生数は62名

アジア系語学科の新規入学者はなし。なお、アジア系語学科については近年新規入学者がない状況から学科の再編を検討。従来3学科のうち中国語及びアラビア語学科を廃止し、「韓国語学科（仮称）」及び「日本語教育科（仮称）」の新学科を開設する準備を開始した。開講は平成29年4月1日を予定。

イ 専修学校の附帯教育及び別科

(ア) 個人を対象とした教育

一般社会人向けの教育、いわゆる生涯教育では、土曜コース語学講座（別科速成科昼間クラス）の他、少人数のニーズに応える特別講座や短期の語学講座等を実施した。また、初心者を対象にした語学の体験講座を企画し、三鷹ネットワーク大学の文化・教養講座の一つとして開講した。開講言語及び受講者数は以下の通り。

《土曜コース（別科速成科）》 ※ 受講人数は延人数

入門：中国語、タイ語、ベトナム語、ウルドゥー語 計11名

初級：中国語 計11名

中・上級：アラビア語、韓国語、タイ語 計48名

《特別講座》 ※ 受講人数は延人数

アラビア語会話、アラビア語基礎構文、アラビア語初級会話、アラビア語講読、

アラビア語文法復習、アラビア語初級・中級、アラビア書道、

中国語入門・初級、インドネシア語入門・初級、ロシア語入門・初級、

韓国語夜間講座、テーマ別アラビア語特別講座 計151名

《三鷹ネットワーク大学における語学の体験講座》

スワヒリ語他 全8言語（平成27年4月）

フィリピン語他 全6言語（平成27年10月）

(イ) 法人・自治体・国の機関を対象とした教育

官公庁からの派遣語学研修生を対象としたクラスを中心にアジア・アフリカ語の語学研修を下記の通り行った。

《語学研修》

アラビア語 1 件、ベトナム語 1 件、韓国語 1 件、英語 7 件 以上、10 件を実施

ウ 在日外国人子弟に対する日本語教育及び学習支援

三鷹市内在住の外国人子弟対象の「日本語教育支援プログラム」を実施した。概要は以下の通り。

実施期間：平成 27 年 8 月 17 日から同 20 日までの間の 4 日間

学習時間：1 日あたり 50 分授業を 2 回

対象者：1 名（小学 1 年生）

(2) 学生寄宿舍の運営

専門学校アジア・アフリカ語学院に在籍する留学生の学生寮として、当法人所有施設「有朋館」（ゆうほうかん、全 20 室・基本入居可能人数 23 人）と「青雲公寓」（せいいうんこうぐう、全 4 室・基本入居可能人数 8 人）を使用し、運営した。平成 27 年度の年間稼働率は、有朋館が約 100%、青雲公寓が約 73%だった。このほか、近隣の民間賃貸物件 35 室も寄宿舍として利用した。

(3) その他

ア 市内の小学生との交流活動

例年同様、近隣の市立小学校と日本語学科留学生が交流する活動を 2 回に分けて行った（平成 27 年 11 月、同 12 月）。

イ 三鷹国際交流フェスティバルや地域の行事への参加

三鷹国際交流協会主催の「三鷹国際交流フェスティバル」に日本語学科留学生の有志が参加。専門学校アジア・アフリカ語学院のテントショップや各種イベントの運営に携わった（平成 27 年 9 月）。また、同留学生らは、自治会などが主催する地域の夏祭りや、近隣の市立小学校の父兄グループが主催する小中学生を対象とした交流イベントにも参加した。

ウ 日本語教育関連プログラム受講生の授業見学の受入れ

日本語教育関連プログラムを履修している大学生に対して、現場実習の一環として、専門学校アジア・アフリカ語学院日本語学科の授業を公開した（都下私立大学 2 校、計 3 回）。

3 国際交流事業（人材交流活動）

(1) アジア・アフリカ世界と日本の人々を対象とした異文化体験の提供

- ① インドネシア・SEAMOLEC(ASEAN 教育大臣機構)主催のインドネシア人教育関係者による日本視察において、日本語教育機関の視察先として同視察団の訪問を受け入れた。

＜参加者＞ インドネシアの教育関係者（高等学校教員など） 計 18 名

＜視察日時＞ 平成 28 年 3 月 7 日

- ② 日本国外務省の招へい事業により郭沫若のご息女・郭平英中国郭沫若研究会名誉会長ら一行が来日。郭平英女史から郭沫若文庫訪問の希望があり一行の訪問を受け入れた。同文庫所蔵の郭沫若真筆の書などの閲覧を行うとともに、南部図書館の郭沫若展示コーナーも視察した。

＜被招へい者＞ 郭平英・中国郭沫若研究会名誉会長
馬曉力・中国社会治理研究会副会長
張雲方・中華全国日本経済学会副会長
劉会遠・中国九藤文化教育基金会理事長
以上 4 名が被招へい者、他同行者 2 名、計 6 名が来訪

＜来訪日時＞ 平成 28 年 3 月 18 日

(2) アジア・アフリカ世界と日本の教育者・技術者などを対象とした人材交流の実施ならびにこれに係る職業紹介

「日本語教師実践力養成講座」を実施した。本講座は日本語教師資格を有しながらも実務経験の乏しい人々を対象に、専門学校アジア・アフリカ語学院日本語学科の主任教員らの指導のもと実際の教育現場で実習を行い教師力の向上を図るものである。本講座修了後、受講生 1 名が当財団を通じてベトナムの技能実習生送出し機関の日本語教員として採用された。なお、今回は試行実施のため受講料は徴収せず講座を実施した。講座の概要は以下の通り。

講習内容：a) 実習トレーニング、b) 語学教育、c) 就業体験(※オプション)

講習期間：a) 平成 27 年 5 月から同 7 月まで

b) 平成 27 年 5 月から同 6 月まで

c) 平成 27 年 8 月

講習時間：a) 1 日あたり 45 分授業を 4 回、週 2 日、約 10 週間

b) 1 日あたり 50 分授業を 3 回、週 1 日、約 6 週間

c) 2 泊 3 日の合宿形式

講習場所：a) と b) アジア・アフリカ語学院（日本語学科授業）

c) 茨城県美浦研修センター（技能実習生講習）

受講者：3 名

4 国際協力事業

(1) 外国人技能実習生受入れ活動

- ① 文京支所（東京都文京区西片）を拠点に業務を遂行した。受入れ実習生の講習場所は前年度同様、茨城県美浦村の研修センターを利用した。
- ② 技能実習生受入れにおける監理団体として、これまで当法人は〈公益社団法人・公益財団法人〉の枠で活動を行ってきたが、平成 27 年 11 月 6 日付で〈法務大臣が告示をもって定める監理団体〉へ移行した。
- ③ 平成 28 年 3 月末時点における本業務の概況は以下の通り。
受入れ技能実習生数：408 名
実習実施機関数：5 社 10 機関
提携送出し機関数：8 機関（中国 6、ベトナム 2）
- ④ 実習生を対象とした日本語力向上支援プロジェクトについて、前年度から開始した通信型の日本語力フォローアップ教育コンテンツの開発を継続して行った。本年度は日本語レベル初級者向け動画教材の試作品を 2 本製作。平成 28 年度はこれら試作品の検証を行い、改良を施したうえで、一定の到達目標を持つまとまった教材の開発、製作に取り組む予定である。

(2) 日本語教育普及活動

平成 27 年度は実績なし。

Ⅱ その他の法人業務の状況

1 会員

平成 28 年 3 月末現在の会員内訳は以下の通り。

普通会員（個人）	17 名	
特別会員（法人、団体）	1 社	
賛助会員※（法人、団体）	6 社	※ 技能実習生受入れ企業が対象

2 その他

(1) 役員並びに評議員の改選

平成 27 年 6 月 27 日開催の第 6 回評議員会において、任期となった理事及び監事の改選並びに評議員の改選を行った。

理 事	再任 9 名	退任 1 名	（平成 27 年度末の理事現在数 9 名）
監 事	再任 2 名		（平成 27 年度末の監事現在数 2 名）
評議員	再任 13 名	退任 1 名	（平成 27 年度末の評議員現在数 13 名）

(2) 行政庁による立入検査

内閣府公益認定等委員会による〈法人の運営組織及び事業活動の状況に関する立入検査〉が平成 27 年 7 月 17 日に行われた。この検査は公益法人認定法に基づく検査で、新公益法人として遵守すべき事項について当法人の事業の運営実態を法令に照らして確認するものである。第 1 回の立入検査は公益認定後概ね 1 年から 3 年以内を目途に実施されるが、今回の検査は当法人にとっては第 1 回目の検査であった。第 2 回以降の立入検査については、直近の立入検査実施後 3 年以内に実施される予定である。

以上

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

平成27年度 事業報告の附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」の該当なし。

以上